

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

新しく開校した知的障がい支援学校として、地域や関係機関及び府立むらの高等支援学校との連携を深める中で、「自分」「つながり」「チャレンジ」をキーワードとして、一人ひとりの児童・生徒の未来へ向かう夢や希望をはぐくむ学校をめざします。

1 「自分」

- ・自分の願いや自分らしさを大切に、自分の思いを伝え、自分の力でやりとげることのできる児童・生徒を育てます。

2 「つながり」

- ・小学部、中学部、高等部を通じて同年齢・異年齢間の交流を図り、人とのつながりを大切に、互いを思いやり、認め合い、協力する児童・生徒を育てます。

3 「チャレンジ」

- ・「やってみよう!」「できた!」「できる!」の体験を積み重ねることで自己肯定感を育み、新しいことにも自信を持ってチャレンジする児童・生徒を育てます。

2 中期的目標

1 知的障がい支援学校としての専門性の向上及び安全で安心な学校づくり

(教務部・支援部・研究部・生活指導部・情報教育部・健康教育部・各学部・首席)

(1) 児童・生徒の多様なニーズを的確に把握し、児童・生徒の学ぶ喜びを引き出すことのできる授業力や学校行事等における様々な指導方法について、研修と研究の充実を図り、知的障がい支援学校としての専門性と教師力の向上をめざす。

- ※ 研究授業を自主的・積極的に行う中、気軽に意見交換し、互いに授業研究・教材開発（ICT教育の推進等）を深めあえる職場環境を構築する。
- ※ 授業力向上に向けて、授業参観、研究授業・公開授業週間など、保護者・教員が積極的に授業見学できる校内体制の充実を図る。
- ※ 全国的な研修会を含め、積極的に研修に参加できる環境を整備する。研修会参加後は、必ず校内で伝達講習を行い、学校力の向上に努める。

(2) 児童生徒たちの人権意識の高揚を図り、自己肯定感、自尊感情を育む。

- ※ 「ほめて育てる」教育及び児童生徒及び保護者への「寄り添う教育」の実践を図る。
- ※ SST（ソーシャルスキルトレーニング）等を積極的に活用し、人権意識・マナー等の高揚を図る。
- ※ 教職員の人権研修を学期に一度、年3回実施する。「子どもたちの自己肯定感・自尊感情の育むために」を本校の重点課題とする。

(3) 児童生徒が学部学年の枠を越えた活動を実施する。

- ※ 積極的な児童生徒会活動の実践。全校清掃活動「クリーンタイム」を定期的を実施する。学部間交流、高等支援との交流を積極的に実施する。

(4) 防災、減災教育を充実するとともに、大規模災害への備えを行う。両校の教職員が高い危機管理意識を持ちながら、その連携体制の確立を進め、両校の児童生徒のための「安心・安全な学校づくり」をめざす。

- ※ 防犯・防災教育を計画的に実施する。両校で学校防災計画を作成するとともに、PTA活動と連携し大規模災害時の備蓄品などの充実を図る。

2 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の充実

(支援部・教務部・進路部・各学部)

(1) 「個別の教育支援計画」について研究と研修を進める中で、有効かつ機能的なものへと深化させ、個々の児童・生徒への支援を具体化し、「個別の指導計画」との関連性を深めながら、日々の教育実践（授業実践）に反映する。

- ※ 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成手順や様式については、29年度までの3年間で検証し、深化を図る。
- ※ 「個別の指導計画」は前・後期で評価し、保護者に10月・3月に通知（開示）する。本校はこれを通知表に置き換える。

(2) 学校の教育目標を具体化し、個々の「個別の教育支援計画」に取り入れ、保護者及び関係機関との連携を図りながら、高等部卒業後の社会自立に向け、総合的かつ継続的な支援ネットワークの定着をめざす。

3 小学部、中学部、高等部間の連携を強め、卒業後の社会自立をみすえたキャリア教育を柱に、一貫性のある教育を実践する。

(進路部・研究部・支援部・生活指導部・教務部・首席・部主事・高等部職業コース)

(1) 小学部・中学部・高等部において「キャリア発達の観点」を整理し、系統的で一貫した本校独自のキャリア教育プログラムを検討する。

- ※ 27年度は各学部で「学部案内」を作成し、学校見学会、教育相談等に活用。
- ※ 自立活動をはじめ各教科指導にも反映する「キャリアマトリックス枚方版」を29年度までに完成させる。

(2) 児童・生徒一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、学校周辺地域と連携を深め、知的障がい教育の充実・発展を図る。

- ※ むらの高等支援学校との共同で教育の充実を図る。（むらの高等支援学校との連携会議の開催）
- ※ 3年間で高等部卒業時の就労率30%をめざす。（長期休業期間に高等部教員全員による職場開拓を行い、職場実習先の企業を増やす）

(3) 児童・生徒の自立心を高める行事「(仮称)クリーンピック」「(仮称)ジョブリンピック」を実施し、あいさつ運動・清掃・接客マナーの充実を図る。

(4) 「てづくり・てしごと週間（作品・製品展示週間）」に取り組む。

- ※ 作品や製品の販売を通して、近隣のみならず関係機関のみならずと交流を深めるとともに、接客に対する基礎的な力や金銭を取り扱う力を育む。

4 支援教育のセンター校としての充実

(支援部、リーディングスタッフ・コーディネーター)

(1) 枚方市域の支援センター校として、巡回相談や支援教育に関わる情報発信の充実を図り、多種多様なニーズに応える支援体制を確立する。

- ※ 平成27年度は「地域支援室」を試行的に開室する。
- ※ 3年をかけて、リーディングスタッフ、コーディネーターを中心に支援力向上に努め、地域支援室の機能充実を図る。

5 地域に愛され、地域の中で育つ「開かれた学校」の構築

(情報教育部・総務部・生活指導部・健康教育部・首席・部主事)

(1) ホームページの充実を図るとともに地域向け広報誌を積極的に発行する。「学校案内」を新しく作成する。（「広報誌」を発行し、地域自治会に配付する）

- ※ 地域・関係機関をはじめ、多くの方々に対して、積極的な情報発信に努め、地域に愛される安全で安心な「開かれた学校」をめざす。

(2) 学校周辺の清掃活動を通して、地域に貢献し、発展的交流を推進する。

- ※ PTAと連携しながら、児童生徒・保護者・教職員が協同して学校周辺の清掃活動（クリーンウォーク）を年3回（学期に1回）実施する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析	学校協議会からの意見
<p>○児童生徒・保護者・教職員を対象に実施 回収率は児童生徒78%、保護者78%、教職員100%。 【教育活動に関するもの】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校が楽しい」と回答している生徒・保護者が80%を超えており、概ね児童生徒にとって楽しい学校づくりができています。 ・「学校行事はよく工夫されている」との保護者回答が90%程度あり、高評価を得ている。教職員も80%以上が評価をしている。 	<p>第1回</p> <p>○協議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校経営計画について ・学校紹介「教育課程・学校行事の特色」 ・使用教科書の採択について <p>○委員からの提言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他校との交流を積極的に進めていく必要がある。むらの高等支援学校とも行事等に合同

- ・「学校の様子を知らせている」との保護者回答が90%程度あり、日々の様子の連絡について評価を得ている。
 - ・「支援教育に関する教員の専門性」については、学部間に差が見られた。学部によっては、20%は評価をしていないという結果であった。同様に教職員も学部によって約20%は不十分さを感じており、専門性の向上が大きな課題である。
 - ・「効果的な職員研修の実施」については、約20%の教職員があまりあてはまらないと回答しており、研修内容等の検討が必要だと思われる。
 - ・「キャリア教育の推進」については、約10%の保護者があまりあてはまらない、約15%がわからないと回答しており、理解啓発の必要性を感じる。
- 【学校運営・経営に関するもの】
- ・「保護者の悩みや相談への対応」については、80%以上の保護者が評価をしており、相談体制や姿勢、実際の対応について評価を得ている。
 - ・「学校のホームページの情報」については、わからないとの回答が約25%あり、周知等が必要である。
 - ・「校内での業務等」について、30%前後の教職員が課題もあると考えている。今後は業務や学校運営について整備を進めていくことが必要である。

平成28年度枚方支援の重点課題と取り組み

【教育活動について】

- ① 児童生徒一人ひとりに応じた指導・支援の充実
 - ⇒ ○ 授業力向上の取り組み
 - 職員研修会の充実
 - 学習の取り組みについて、保護者への情報発信・情報共有の推進
- ② 系統的なキャリア教育についての検討と情報提供の充実、進路に関する情報提供の充実
 - ⇒ ○ 「自立」「社会参加」を軸にした学校をつなぐ学習プログラムの検討
 - 進路について、保護者への定期的な情報提供の実施

【学校運営・学校経営について】

- ③ 特色ある学校づくり、情報発信の推進
 - ⇒ ○ 教育活動の充実
 - PTAや地域との連携を大切にされた教育活動の実施
 - ホームページの充実と周知
 - ・配付物を活用した周知の工夫
- ④ 早期からの見通しを持った計画の実施
 - ⇒ ○ 今年度分の確実な申し送りの実施、申し送りを基にした早期からの企画の実施
- ⑤ 運営委員会、主任会議等の更なる活用と充実
 - ⇒ ○ 定期的な運営委員会、主任会議の実施と充実

で取り組むべきである。

- ・通学上の子どもの安全確保は地域にとっても関心の高い事項である。
- ・本校にとって「地域の方とのつながり」というのが最大の課題と考えている。地域社会との交流にあたり「何をすべきか」を考えていくことが、課題である。
- ・卒業後の人生が長いことを考えると、地域交流を通して、知的障がいのある方が小・中・高どの段階でも頑張っていることや生活していることを地域住民の人々に知らせることは、これからの生活や将来のために大切なことである。
- ・小、中、高の先生方がつながることが大切である。
- ・同一施設内に2校があるといういわば実験を大阪府教育委員会から課せられている。大変だが、工夫し発展するチャンスであるということ踏まえていったらよいのでは。
- ・共生社会をめざすことは、国が大きうちだした理念である。枚方支援学校がその大きな役割を担う学校になっていくことを含めて今後の活動に期待したい。

第2回

○協議内容

<学校経営計画進捗状況及び課題について>

- ・高等部の「キャリア教育」をおこなうにあたり、職業科の研修があまりないように思われる。先生方が企業を回るなどの取り組みをしてほしい。
- ・企業が「欲しい」という人材を育ててくれない。そのためには、企業がどのような人材を必要としているのかということを職員が十分に理解しなくてはならない。
- ・本気で就労させる意識や就労後続けさせるという意識が大切。
- ・地域の中ではまだ枚方支援学校をよく理解されていない人もいるので、2～3ヶ月に1回でいいので、広報などを通じて学校の様子を発信してもらえるとありがたい。
- ・前回の委員の提言をいろいろ受けていただいていることがわかった。教員を育てるということをマネジメントのミッションとしておいていただけるのは良いことだと思う。

<特色ある実践報告>

- ・現在は校内の学習が中心だが、校外での活動はあるのか？
- 校外に向けての取り組みも検討中である。

<学校教育自己診断原案について>

- ・学校教育自己診断原案について、保護者としては質問項目が多いのはありがたい。
- ・一文内にAやBなど多くの質問要素が並んでいると一つの評価に絞るのに悩むので、細かくしていただいたほうが答えやすい。
- ・第3回の協議委員会で結果報告があるのは興味深い。分析の観点方法によっていろいろな結果が出てくると思われるので楽しみにしている。
- ・本日提示された学校教育自己診断をもとに地域支援の柱となるよう枝葉を広げていって欲しい。開校以来の教育活動を、学校に対する三者（児童生徒、保護者、教員）がどのように評価をするのか、2年目に向けてどのように取り組んでいくのかを次回示していただけるとありがたい。

第3回

○協議内容

<学校経営計画及び学校評価>

- ・「個別の教育支援計画」について、保護者を対象とした学習会を実施していきたいとの説明があったが、どういふものか。
- 「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」の違いについて、内容・目的・作成の大切さ、活用の仕方について学習会を開きたい。
- ・教員の中にも「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」について十分理解できていない人もいるので、より良いものにするため、保護者のほうからも『この部分もっと書いて』など言ってもよいものだと思う。
- ・登下校時に道路や踏み切りに教員が安全確保のために見守ってくれているのは、地域としてとてもありがたい。散歩等でも安全指導をしてもらいたい。
- ・クリーンウォークはどうだったか。地域の花壇に水をやりに行くなど、新しい発想も必要。
- 今年度は、PTAに学校周辺を清掃していただいた。児童生徒の活動も含め検討していく。
- ・高等部の就労についてはどうか。
- 今年度、企業就労が決まっているのは1名。希望者も1名であった。
- ・今後、企業へのアプローチがあってもいいのでは。残念ながらむらの高等支援学校に進学することができず、枚方支援に入学した生徒においても大切なことだと思う。
- 次年度、企業実習等を充実させていきたい。

<学校教育自己診断集計結果>

- ・開校1年目ということで、教職員の連携に課題が見てとれる。今後、自由闊達な意見交換ができる環境づくりが必要である。
- ・講師が多いという教員構成から見られる結果もあるのでは。
- ・学部間の特色がでてきている。人事や学校の課題など。
- ・結果をみて驚いている。（謙遜しているのかもしれないが、）『障がいの特性理解』『専門性』の点であてはまらないと回答していることはありえない。
- ・今後取り組んでいくために、優先課題を見つけることが必要である。
- ・各学部で考察を行い、課題を見つけ具体的に示すことが必要。
- 数字（割合）の結果と合わせ、数字でははかることができない内面的な分析も行い、課題にアプローチしていきたい。

府立枚方支援学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
知的障がい支援学校としての専門性向上及び安全で安心な学校づくり	(1)教員一人ひとりの授業力を高める。 ア 保護者との連携 イ 授業研究及び研究授業の充実 (2)児童生徒たちの人権意識の高揚を図り、自己肯定感、自尊感情を育む。 ウ 作品展示の充実 (3)児童生徒が学部学年の枠を越えた活動を実施する。 エ 交流教育の充実をめざす (4)防犯・防災教育の充実を図る。	ア 定期的な授業参観・懇談会を行い、保護者との連携を深め、学校が情報や意見の交換の場となるよう「開かれた学校」をめざす。 イ 教員一人ひとりが年1回以上の授業研究を行う。初任者においては、年2回以上の研究授業を行う。(外部講師の授業観察、助言・指導) ウ・「ほめて育てる」教育を実践する。児童生徒の作品や賞状などを校内に展示し、子どもたちの活動を肌で感じる学校づくりに取り組む。 ・課外活動の充実を図る。 エ 全校あげての児童生徒会活動に取り組む。 ・全校清掃活動「クリーンタイム」を定期的実施する。 ・七夕まつりを通じてむらの高等支援学校との交流を深める。 (4)・実践的な防災教育を行い、児童・生徒の防災意識を高める。 ・PTA活動との連携のもと、大規模災害時の備蓄品などの充実を図る。	ア 定期的な授業参観時に、授業アンケートを実施し、保護者からの意見収集をもとに、効果を検証する。 イ 初任者の研究授業を一人2回実施したか。授業研究・教材開発の成果を集約できたか。 ウ・校内に展示ブースを設け、児童・生徒作品を展示できたか。 ・部活動の創設。 エ・全校清掃活動を定期的実施できたか。 ・高等支援との交流を実施できたか。(今年度は7月・1回) (4)・防災、防犯訓練を計画的・系統的に実施できたか。(年2回) ・PTA活動と連携し、必要な物資(水、食料など)が備蓄できたか。	(ア)授業参観参加率も授業アンケートの回収率も高い値。意見・要望を授業改善に有効活用できる。(○) (イ)初任者の研究授業は一人二回予定していたが、一回実施となる。(△)ICT機器など教材開発の成果あり。(○) (ウ)廊下、窓、壁を利用して児童生徒の作品を掲示。(○)部活動も地域の中学校・支援学校との交流まで進展。(◎) (エ)クリーンタイム、クリーンピックも予定通りに実施。小中高の交流深まる。(○)むらの高等支援との交流実施。(七夕まつり)(○) (4)地震・火災・不審者等の訓練実施。(○)PTAと連携し備蓄品等整備・保管。(○)
「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の充実	(1)「個別の教育支援計画」についての研究と研修を充実させるとともに、「個別の指導計画」との関連性を深め、個々の児童生徒への支援を具現化する。 (2)「個別の教育支援計画」をツールに、保護者及び関係機関との連携を図り、高等部卒業後の社会自立に向け、継続的な支援ネットワークの定着をめざす。	(1)「個別の教育支援計画」等の作成を通じて、より深く保護者と連携するとともに、「個別の指導計画」と関連させながら、支援内容を具現化し、児童生徒が主体的に自立していけるよう指導・支援していく。 (2)「個別の教育支援計画」が就学前から高等部卒業後を見据えた、一貫した支援ツールになっているか。また、実際に活用できているかを検証する。 ・「個別の教育支援計画」の活用について、保護者対象の学習会を実施する。	(1)「個別の教育支援計画」は、本人・保護者のニーズを踏まえて作成されているどうかの肯定率75%以上めざす。 ・「個別の指導計画」の記入マニュアルを1学期中に作成・活用できたか。 (2)「個別の教育支援計画」の活用状況を検証する。 ・保護者対象の「個別の教育支援計画」についての学習会が実施できたか。	(1)・学校教育自己診断にて検証。肯定率93%(○) ・「個別の指導計画」記入マニュアル作成済み。(○) (2)・学校間、学部間の引き継ぎ及び進路関係の実習等に活用。安全な体験実習実施に有効活用となる。(○) ・今年度は保護者対象学習会を実施できなかった。次年度は必ず実施する。(△)
小学部から高等部までのキャリア教育の充実	(1)各学部で実践しているキャリア発達の観点を整理し、それぞれの教育課程に位置づける。 ア キャリア教育を柱にした教育課程の検討及び編成 イ 高等部卒業生の適切な進路選択・決定を図る。 ウ 職場開拓及び実習先の充実を図る。 エ 自立心を高める行事を実施する。	ア 教育課程検討委員会を中心に、知的障がい支援学校におけるキャリア発達の観点を整理し、各学部の教育課程の柱としながら系統的で一貫した編成を検討する。 イ 高等部卒業生一人ひとりの特性に応じた適切な進路選択・決定(マッチング)を図る。 ウ 教員一人ひとりが、地元周辺地域で、進路開拓を行い、生徒の企業実習先の拡大を図るとともに、将来的に雇用が生まれる就労先を探す。 エ・「(仮称)クリーンピック」を実施して、挨拶、清掃作業について充実を図り、児童・生徒の自立心の高揚を促進する。 ・「てづくり・てしごと週間」において、作品や製品の販売活動を通じて、近隣や関係機関のみなさまと交流を深める	ア 「学部案内」を1学期中に作成できたか。 イ 福祉就労を含めて、高等部卒業学年の就労率(進路先)100%をめざす。 ウ 高等部教員全員で進路開拓(実習先等)を実施できたか。 エ・「(仮称)クリーンピック」が実施できたか。(今年度は1回試行実施) ・作品や製品の販売を実施できたか。	(ア)1学期中に作成し、学校見学会に使用。(○) (イ)企業就労1名を含め、ほぼ進路先が決まる(○) (ウ)進路開拓は進路部教員で実施。高等部教員全員での開拓には至らなかった。さらなる開拓が課題。(△) (エ)・1月に実施。小中高のつながりが深まる。(○) ・2/1~2/5 作品展示週間実施。その中で作品、製品の販売活動も実施。(○)
支援教育のセンター校としての充実	(1)支援教育センター校としての役割 ア 本校地域支援室の機能充実 イ インクルーシブ教育の推進 (2)校内支援体制の充実	ア 支援方法等について研修・研鑽を深め、支援できる教員の育成を図る。 イ 枚方市の小・中学校の巡回指導の徹底と支援活動の充実を図る。地域支援室の機能充実を図る。インクルーシブ教育の推進のため、枚方市教育委員会との連携を深める。 (2) 校内ケース会議の充実を図り、関係機関との連携を深めながら、効果的な支援に繋げる。	ア 支援室からの発信(研修、支援室だより等)により、校内教員の支援力向上を推進できたか。 イ 支援活動を積極的に展開する中、支援室としての機能を十分に果たせたか。 (2) 校内ケース会議の内容・回数・考察によりその効果を検証。	(ア)研修・支援室だより等により教員力の育成・推進。(○) (イ)コーディネーター中心に巡回相談(センター的機能)の充実を図る(○) (2)必要に応じて校内ケース会議を実施したが、まだ定着していない。(△)
「開かれた学校」の構築	(1)ホームページの充実を図る。 (2)保護者や地域みなさんに愛される学校をめざす。	(1)学校の最新の情報発信に努めると共に、地域向け広報誌を積極的に発行する。 (2)学校周辺の清掃活動を通して、地域に貢献し、発展的交流を推進する。	(1)ブログ、ホームページ等を頻繁(月に1回)に更新したか。広報誌を定期的(年3回)に発行したか。「学校案内」を新しく作成し、活用したか。 (2)クリーンウォークを年3回実施できたか。	(1)ブログ、ホームページは随時更新。(○)広報誌「学校新聞」を年3回発行。(○) (2)PTA活動として2学期に1回実施。児童生徒・教員による地域貢献が課題。(△)